

実施クラス	実施日	実施保育者名
3,4,5 歳児 デイジー、クローバー、オリーブ 組	6 月 12 日 ( 木 )	梶山

## ● 実施計画

活動テーマ		
水の探究 ～物の重さの違い、色の仕組み～		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
川遊びや水遊びを通して水に興味を持っている時期であり、雨が続いていて外での川遊びや水遊びが出来なくなってきている為、室内で水に触れることができる機会を作った。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:50～	各グループごとに声を掛け、興味のある児はアトリエへ集まるように声を掛ける。	<b>【環境設定】</b> ・水の様子を観察できるよう、無色透明の物を準備する。 ・食紅も普段は自分たちで出しているが、今回は食紅を出して色を付けることが目的ではなく色の変化を丁寧に感じて欲しかったため3原色に限定し進める。 ・電灯の下での水の様子も観察してもらう為、室内も暗くして行なう。 ・グループが変わる度に、始めの状態に戻し探究を続けるではなく始めの状態から行なえるようにする。  <b>【準備物】</b> ・鏡 ・水槽 ・透明のコップ ・透明のプラ容器 ・卵型の発泡スチロール ・アクリル積み木 ・ボタンおはじき ・タングラム
9:55～	始めにどういった活動を行なっていくのか説明をし、大きな水槽には色水を入れないで欲しい事だけを伝えた。あとは、置いてあるものを自由に使って進めて行って欲しいと伝えた。	
	街探検グループ、活動開始。色は混ぜりすぎないように3原色で限定して行なった。「色を好きなように混ぜて見て」「コップに水を入れてきてみて」などの声掛けを行ないながら進めた。	
	ひと通り進んだところで次のグループへ交代した。	
10:25～	SDGsグループ、活動開始。初め状態に戻してから、同じように説明をし進めていった。	
10:55～	スイカ・メロングループ、活動開始。	

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
先週と同様の活動を行なった。 川遊びや水遊びに熱中して、水に興味を持ち始めている時期だったので水について知る良い機会となった。それぞれのグループの中で、同じ気付きとそれぞれが違うように感じる気付きとがあってしっかりと”探究”を進めていくことができていたように感じる。	・水槽で観察しているところでは「この卵(発泡スチロール)と積み木、どちらが水に浮いているの?」と尋ねると「卵の方が浮いてるよ。卵の方が軽いからだよ」と言っていた。 ・色水の探究では3原色を用意し、混ぜてもらった。様々な容器も準備していた為、陽気に入れ替えて遊んでいたところ、「こっちの入れ物(深い容器)は色が黒っぽいのにこっちの入れ物(浅い容器)に入れると、綺麗な色に見える!」と陽気に寄って見え方が違う事に気づいていた。また、水の中に物を入れると大きくなることも発見していた。

## ● 振り返り

保育者側の気付き
前回できなかった児たちが探究に参加してみたが、グループによって出てくる疑問や発見が違い子どもたちにとってとても良い経験となっていたように感じる。また、好きな活動である”水”に触れる事で興味のあるテーマだったこともありスムーズに進めていくことができた。

実施クラス	実施日	実施保育者名
3.4.5 歳児 デイズ、 クローバー、 オリーブ 組	8 月 1 日 ( 金 )	岩崎

## ● 実施計画

活動テーマ	
食べ物～夏野菜	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
ゴーヤやトマト等を栽培している中で、夏の野菜に興味を持つ。昨年度から引き続き、野菜の断面に興味を持っている子どもも多かった。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00	アトリエを夏野菜の探究ができるようにデザインしていく。
10:10	ライトテーブル、顕微鏡、鏡、卓上ライトそれぞれ好きなように使っていいことを説明し、探求開始。 グループ毎に活動開始。 ひと通り進んだところで次のグループへ交代。
10:45	次グループ、活動開始。初めの状態に戻してから、同じように説明をし進めていった。
<b>【環境設定】</b> ・テーブルに薄型の発泡スチロールと、鏡、ライトテーブル、卓上ライトを置き、卓上で探求できる空間をデザインした。 ・顕微鏡も用意し、細部まで探求することができるようにした。 ・画用紙や色鉛筆も配置し、素描もできるようにした。  <b>【活動使用教材】</b> ・きゅうり ・きゅうりのはっぱ ・トマト ・トマトの葉っぱ ・なす、とうもろこし、ピーマン、ゴーヤ ・ライトテーブル ・鏡 ・透明のトレイ ・卓上ライト ・マイクロSCOPE ・アクリル端材 ・凸型レンズ ・虫眼鏡  ・画用紙、色鉛筆	

## ● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・なじみのある夏野菜を並べ、光に当てて観察したり、マイクロSCOPEや凸型レンズ、使用して、ミクロとマクロの世界を行き来しながら多角的に探究した。 ・卓上ライトで光を自在に操り、対象をより深く観察し、素描した。 ・ライトテーブルの上に葉っぱや断面を置いて、葉脈や果実の中の種子等を観察した。	・夏野菜が卓上で光に照らされ、鏡やアクリルの端材の上に置かれているのを目にすると、各グループの子ども達が、すぐに野菜を手に取り、「ちくちくする」「(トウモロコシのひげ)なんか、草みたいな匂いがする」と、夏野菜を五感で感じようとする姿が見られた。 ・マイクロSCOPEに加え、凸型レンズをはじめ設置したため、「これなに?(野菜の上に置いて)これ大きくなるよ」「すごい良く見える」と感動している姿が見られた。 ・マイクロSCOPEでトウモロコシのひげを観察した子どもは、「中身がこんな粒とか線がある。別のもみたい」とマクロとミクロの世界の見え方の違いに驚いていた。 ・画用紙を見つけ、素描をはじめ子どももおり、入念に観察し、細部まで細かく描きあげようとする姿が見られた。

## ● 振り返り

保育者側の気づき
夏野菜と長時間向き合う機会が持て、ただの食べ物としてだけでなく、五感を働かせ向き合ったり、マクロとミクロの世界を行き来して観察したり、臭いや質感を実際に嗅いだり触ったりしながら確かめ言語化する事で、今まで見ていた当たり前のものの、当たり前ではない姿に気づく瞬間が見れた事が、非常に有意義だった。単に食べ物としてだけでなく、観察する側の視点で、多様に変化する夏野菜という素材を堪能する事ができた。

実施クラス	実施日	実施保育者名
3,4,5 歳児 デイジー、クローバー オリーブ 組	9 月 16 日 ( 火 )	岩崎

## ● 実施計画

活動テーマ		
これは何色? ~黒の濃淡~		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
色を使うことは多く、食紅などを使うことは多くそこで色の濃淡に気付く様子も見られた。 そのためさらに違いの分かりやすい墨で濃淡について探究することにした。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~	ロール紙と濃さの違う墨汁、色々な形の筆を用意し自由に表現していいと伝えグループごとに活動を始める。	<環境設定> ・ロール紙を4~6名が横並びに入る程度に広げる。 ・向かい側に濃さの違う墨汁を人数分用意する。 ・太さ、大きさの違う筆を数種類用意する。
10:20~	次のグループへ交代。 始めのグループと同じように環境を設定し直し、始める。	<準備物> ・ロール紙 ・墨汁 ・水 ・パレット ・筆(数種類)

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> <li>・色を黒に指定し、絵の具ではなく墨汁で行なった。墨汁は、濃淡やにじみ、かすれが生まれ、その様子を探究した。</li> <li>・ロール紙と水と墨汁、色々な形の筆を用意し自由に表現していった。</li> <li>・保育者が助言することなく子どもたちの発見、探究のみで進めていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが描いた線と自分の線の違いに気付く「こっちの線とそっちの線、なんか違う」と言っていた。</li> <li>・書き始めと書き終わりで色の濃さが違う事に気付く、「こっちよりこっちが濃いよ」と濃淡に気付いていた。</li> <li>・また、線を描いているうちに点を書き始める児がでくると自分も描いてみたいと色々な種類の筆で色々な点を描き大きさや濃さの違いに気付いていた。</li> <li>・太い刷毛で線を描いていた児は少し薄れて行っている様子を流れ星のように感じたようで「この線、星が出る夜の空みたい」と言っていた。</li> </ul>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロール紙に濃さの違う墨汁、太さ大きさの違う筆を準備し、横に並んで探究していった。その際に友だちが描いた線と自分の線の違いに気付く様子も見られた。</li> <li>・自分が描いた線も描いていくうちに線が薄れていく様子も気が付き書き始めと書き終わりで色の濃さが違う事に気付いていた。</li> <li>・また、線が点へと変化していき、線と点の混ざり合いを楽しんでいた。</li> <li>・墨汁は、濃淡やにじみ、かすれによって立体感や奥行き、力強さを表現できる事に気付く、色々な線を描き楽しんでいた。</li> <li>・墨の特性と紙や水などの条件が組み合わさることで、偶然生じるにじみやかすれが、二度と同じものを生み出さないということにも楽しさを感じていた。</li> </ul>	<p>色は活動をとおして視覚的に必ず入ってくる身近なものであり、子どもたちは自らの経験から得た様々な表現を楽しみ味わう姿が見られました。</p> <p>濃厚から生み出された力強さや温かさ、冷たさ、はかなさなどを感じ取り、子どもは自由に感情を表出しました。</p> <p>墨の複雑で繊細な濃紺の違いに気づき関心を深め、創造を広げていき、味わうことができた色は、子どもの表現を鮮やかに白の表紙に映し出し、豊かな創造力を生み出したと思います。</p>